

日時 平成26年9月3日(水)

単元名 うら野川であそぼう

指導者 北信教育事務所学校教育課指導主事 佐藤 利恵 先生

授業学級 2年1組20名(男子10名 女子10名)

授業者 宮下 恵理子 教諭

学校教育目標 ○あかるい子 ○かしこい子 ○たくましい子

全校研究テーマ 友と「かかわり」ながら、自ら考え「学び」をつなげる子ども

### 「育ちの願い」から始める生活科

#### 実態を捉える

1年生の8月に初めて浦野川に出かけた。パンツ一枚になり、川の中を走り回ったり、水をかけ合ったり、泳いだり、もぐったりした。虫取りに夢中になった子どもたちは、カニやオタマジャクシがいたと言って目を輝かせて見せに来た。子どもそれぞれが自分のやりたいことをやりたいようにやりきっていた。ひとつの活動に満足すると、教師が指示をしなくても、別の活動に移っていた。一人ひとりの浦野川という対象への思いが支えとなり、新たな発見を生み出していた。

パンツ一枚にはなっていたが、友達が喜々として遊んでいる姿を、河原に立ってじっと見ているA子がいた。「この子は今、何を思っているのだろうか。」「みんなと一緒に川に入って遊びたくはないのだろうか。」「見ているだけで、満足なのだろうか。」と担任は考えたが、何も言わず、A子の動きを見守っていた。次の川遊びの時、A子は水着になって、自分から水の中へゆっくりと体を入れていった。担任は、前の時間のA子を思い出した。「あの時、A子は入りたいけど、入れない自分と向き合って葛藤していたんだ。あの時、自分が何らかの支援をしていれば、前の時間にすでに川に入っていたかもしれない。」とふり返った。

#### 「育ちの願い」を明らかにする

- ・対象への関わりを深める中で、自分がやりたいことを見つけて、無我夢中で取り組んでほしい。
- ・無我夢中で取り組む中で、満足感や達成感を味わい、自分の言葉や行動に自信をもってほしい。
- ・活動や体験の中で生まれる自分の思いや願い・考えを、言葉や行動、絵や文など様々な方法で、のびのびと表現してほしい。



#### 本校の生活科でめざす子どもの姿

- ・課題を自分で見つけ、進んで学習や活動に取り組める子
- ・学習や活動を通して、自分に自信をもてる子
- ・自分の思いや考えを、のびのびと表現できる子



生活科研究テーマ 対象への関わりを深め、自らの願いを実現していくための支援のあり方はどうあったらよいか



#### <生活科研究テーマを具現化するための視点>

- (1) <題材の選定>子どもにとって、どんな意味や価値があるかを見極める。
- (2) <子ども理解>一人ひとりの子どもの良さや困難点を理解し、その子らしさ把握する。
- (3) <指導の具体化>児童の思いや願いに寄り添った適時性・的確性のある支援をする。
- (4) <評価のあり方>自立への可能性をさぐるための評価をする。

## 学習指導案

1 単元名 「うら野川であそぼう」 小単元名「いかだをつくってレースをしよう」

2 小単元設定における授業者の思い

学校のすぐ裏にある浦野川が大好きな2年生。春から川へ何度も通い、自由に遊び、どんな生き物がどこに住んでいるのかということや、天候によって川は変化することなど、様々なことに気付くことができた。日々変化する川で繰り返し遊ぶことで、一人一人が「こうしてみよう」「今度はあれをやってみよう」といった願いをもち、それを思い思いに実現してきた。そんな中、Tさんが、ふと「みんなでいかだをつくってみたい」とつぶやいた。

子どもたちは、今までの学習でも学び合いや共同活動を行ってきたが、一部の子だけが活躍することが多かったり、班のメンバーによって、自分の気持ちをなかなか表現できない子もいたりした。子どもたちには、一つの課題に向かって友だちと協力して活動することで、我慢したり、気持ちを合わせたりして、一つのことをやり遂げる楽しさやそのよさを感じてほしい、その中で自分の思いや願いを表現できるようになってほしいと願い、Tさんのつぶやきを全員に提案することにした。

浦野川での遊びの経験を十分に生かし、いかだを作り、レースを楽しむことを通して、友だちと協力して活動することの喜びや楽しさを味わってほしいと願い、本単元を設定した。

3 評価規準 内容(6) 視点 キ ケ

	A 生活への関心・意欲・態度	B 活動や体験についての思考・表現	C 身近な環境や自分についての気付き
評価規準に盛り込むべき事項	身近な自然や物を利用した遊びに関心をもち、みんなで楽しく遊ぼうとしている。	身近な自然や物を利用して遊びを考えたり、遊びに使う物を自分なりに工夫したりして、それをすなおに表現している。	遊びや遊び使う物をつくる面白さ、自然の不思議さ、みんなで遊ぶ楽しさに気付いている。
単元の評価規準	浦野川での遊びに関心をもち、みんなで楽しく遊ぼうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>浦野川やその周りの自然、身近な物を利用して遊びを考え、工夫をして遊んでいる。</li> <li>浦野川で遊んで気付いたことや、友だちと関わって遊んだことを、自分なりの方法で表現しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>浦野川での遊びを通して、川の生き物や、水温や水量、流れの違いなど、川の不思議さに気付いている。</li> <li>日々変化する浦野川で工夫をして遊ぶ楽しさ、友だちと協力して工夫したり遊んだりするよさに気付いている。</li> </ul>
小単元における具体的評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>①自分たちが乗るいかだを作りたいという願いをもち、友だちと協力して作ろうとしている。</li> <li>②川で遊んだ経験を、いかだ作りに生かそうとしている。</li> <li>③作ったいかだで、友だちとレースを楽しもうとしている。</li> <li>④より速く進むためにはどうしたらいいか考え、工夫しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①浦野川の知識を生かし、いかだの形やコースを考え、工夫をしている。</li> <li>②遊びを工夫したり、友だちと関わって遊んだりしたことを振り返り、絵や文など、自分なりの方法で表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①いかだを作り、乗って浮かぶ楽しさに気付いている。</li> <li>②友だちと協力して考えたり、作ったりする楽しさやよさに気付いている。</li> <li>③友だちの考えのよさや、友だちと自分との考えの違いに気付いている。</li> </ul>

4 単元展開 (全 30 時間)

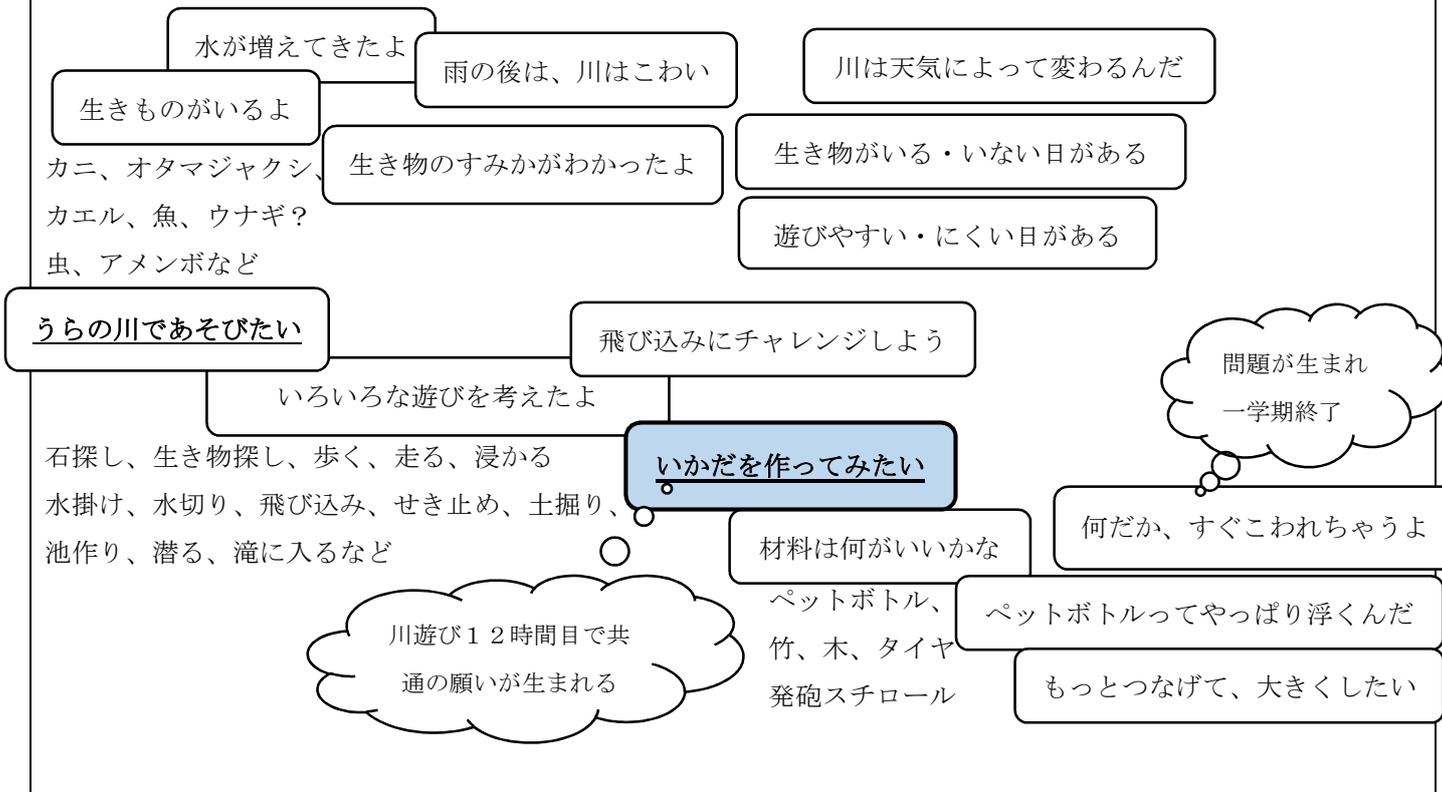
	活動内容・予想される子どもの意識	・教師の支援 ◇評価	時
第 1 次	<p><b>うら野川でたくさんあそぼう</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>どこに生き物がいるのかな。石の下を探してみよう。</li> <li>今日は前と違って、水が多いよ。すごく冷たい。</li> <li>雨の後は、流れが速くて、危ないな。濁っている。</li> <li>滝に打たれて、修行ごっこをしよう。</li> <li>今日こそ飛び込みにチャレンジしよう。</li> <li>船を作って、浮かべてみたい。</li> <li>みんなでいかだを作ったらどうかな。</li> <li>材料は何がいいかな。集めやすいのがいいね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人が願いを持つことができるように、対象にじっくりと浸れる場と時間を確保する。</li> <li>一緒に川へ入り、遊び、子どもの思いにできるだけ寄り添うようにする。</li> <li>毎時間記録を取り、子どもの内面の変化や表出しない願いを知る手がかりとする。</li> <li>川への気付き、自分への気付きを子どもに記録させ、変化を感じさせるようにする。</li> </ul>	12
第 2 次	<p><b>いかだをつくってレースをしよう</b></p> <p><u>○いかだをつくらう</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ペットボトルをどんな風に並べようかな。</li> <li>浮いたけど、乗ったらバラバラになっちゃったよ。どうして○班はバラバラにならないのかな。見せてもらおう。</li> <li>川の底に当たったから壊れちゃったのかな。ごつごつしているし。当たっても壊れないように、底に何かくっつけたらいいんじゃない。</li> <li>いかだで他の班と競争したいな。ぼくらが勝つためにはどんないかだにしたらいいかな。</li> </ul> <p><u>○いかだでレースをしよう</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>浦野川は石がごろごろしていたから、いかだは細い形にしようよ。</li> <li>こっちのコースを進んでいくと、流れが速いから、速く進みそうだ。</li> <li>2組と競争したいな。</li> <li>大会を開きたい。お客さんも呼びたいね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友だちと関わり合う場を設け、子どもたち自身で小さな問題解決を重ねていけるようにする。</li> <li>活動のステップを小さくして、自分たちで問題に気づけるようにする。</li> <li>班で活動を行い、友だちとの関わり合いが生まれるようにする。</li> <li>問題が発生したら、友だちと話したり、他の班の様子を見たりして、アイデアを共有するように促す。</li> <li>難しい問題や、いい気付きはその場で取り上げ、全体へ広げていく。</li> <li>毎時間の終わりに、できたことや次の時間にやりたいことなどを発表し、友だちのよさへの気付きを積極的に取り上げていく。</li> </ul> <p>いかだづくり ◇A①, A②, B①, B②, C①, C②, C③</p> <p>いかだレース ◇A③, A④, B①, B②, C②, C③</p>	12
第 3 次	<p><b>うら野川いかだコースマップをつくって、はっぴょうしよう</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>浦野川のことをよくわかった。たくさんかけそうだ。</li> <li>全校に発表したいなあ。</li> <li>ここは流れが急に速くなるから、気をつけるように書こう。</li> <li>石がたくさんあって危ない所も書いた方がいいんじゃない。</li> <li>ここはすごく深いから、それも書いた方がいいよ。</li> <li>ドキドキコースと一緒に、安全なルートも書いておこう。</li> <li>生き物がいるところも書きたいな。ここだよね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動を振り返り、浦野川について詳しくなった自分自身を自覚できるようにする。</li> <li>思い出すために、今までの記録を見たり、友だちと話したりするように促す。</li> <li>発表したい気持ちを大切にして、誰に伝えたいか意識して書かせるようにする。</li> <li>気付いたことや知ったことをマップに記入させ、自分たちの学びを視覚的に表現させ、実感できるようにする。</li> <li>いかだの「解体式」を行い、いかだや浦野川に感謝の気持ちを持ちながらお別れができるようにする。</li> </ul>	6

川への気付き

気付きの質の高まり

子どもたちの活動の姿や意識の変化（一学期：これまでの15時間）

川へ行く → 川についての気づき → 遊びを工夫 → 願いが生まれる → 願いの実現のために → 問題発生 → 工夫をする → …



## 5 本時案

### (1) 本時の主眼

浦野川でいかだレースをしたいと願いをもった子どもたちが、班の全員が乗れるいかだを作る場面で、川の様子を確かめたり、ペットボトルの並べ方やガムテープの貼りつけ方を見合ったり、話し合ったりすることを通して、川を下れる頑丈ないかだにするにはどうしたらいいか考えたり、工夫したりすることができる。

### (2) 指導上の留意点

- ・プールサイドに道具や材料を準備し、その場ですぐに改良と試し浮きができるようにする。
- ・服装は、プールに入れるように水着を着用する。
- ・浦野川で乗ることを意識していかだ作りを行えるように、浦野川の写真や川マップなどを掲示する。

### (3) 展開

#### ○いかだの問題を確認する

- ・なぜ全員乗れないのか、バラバラになってしまうのか、問題の原因を確認し、取り組む課題を明確にする

#### ○班に分かれて、いかだの改良を行う

- ・作りながら、試し浮きも行わせる
- ・いいアイデア、気づきを拾い、広げていく
- ・積極的に他のグループとも交流させるようにしていく

#### ○工夫してみてもうまかったことや、考えてもうまくなかったことを発表する

- ・次時に取り組みたいことや、どんなことをやってみたいかを、一人一人が決めて終わるようにする

◇評価 今までの経験や、友だちとの交流を生かし、以前より頑丈ないかだを作るための工夫ができたか。

本時案

(1) 本時の主眼

浦野川でいかだレースをしたいという願いをもった子どもたちが、班で二人乗りのいかだを改良する場面で、前回の試し浮きの様子を確認めたり、実際に改良したいかだを川で浮かべ、乗って様子を見合ったりすることを通して、みんなで決めたコースを他の班より速く安定して下れるいかだにするにはどうしたらいいか考えたり、工夫したりすることができる。

(2) 本時の位置 (全30時間中の第23時)

前時 川で試し浮きをして、問題が見つかったいかだを、どう改良するか話し合い、改良を始めた。

次時 改良を重ね、レースの準備を行う。

(3) 指導上の留意点

- ・事前に川の状態をよく把握し、川の水量、天気などから危険と判断される場合は、無理して活動を行わないようにする。
- ・決められた範囲のみで活動することとし、下流などには行かないように指導する。
- ・安全には十分注意させると共に、救急道具などを準備し、けがなどに対応できるようにする。

(4) 展開

段階	活動内容 ・予想される子どもの意識	・教師の支援 ◇評価	時間
導入	1 前の時間に話し合ったことを確認しよう ・すぐ取れちゃうから、ガムテープの貼り方を直すことになりました。 ・もっとよく浮くように、ペットボトルを2段にするとところを増やす予定です。	・前時の学習カードを見るように促し、話し合ったことを確認させる。 ・困っていることがないか確認し、あれば全体に問いかけ、アイデアを募る。	5
展開	2 話し合ったことをもとに、いかだを直そう ・この前浮かべたときは、後ろが沈んでいたよ。もっとペットボトルをつけようよ。 ・横につけると、川を下るときに邪魔にならないかなあ・・・。 ・ガムテープは交代で使おう。みんなで一緒に作ろう。 3 浦野川へ行って、いかだを浮かべてみよう ・うまくコースを進めるかな。 ・今度は二人で乗れたけど、進んでいくうちに途中で後ろが沈んじゃうな。 ・岩に当たって、ペットボトルが取れちゃった。ここをもっとしっかりつけよう。	・いろいろなアイデアが自由に生まれるように、班の友だちだけでなく、他の班とも交流するように声かけをする。 ・トラブルが生じたら、お互いの意見を整理し、どうしてそうしたいのかをきちんと説明させるようにする。 ・自分の考えを表現しやすいように、必要に応じて「どう思う？」など、発言を促す声かけをしていく。 ・工夫が思いつかない子には、うまく浮いた時の様子を思い出させたり、実際に川で浮かべた時の様子を観察させたりする。  ◇他の班より速く、安定して下れるようにするにはどうしたらいいか、考えたり、工夫したりしている。(活動の様子、つぶやき、発言)	15  20
終末	4 工夫したことや、次回やってみたいことを発表しよう ・ガムテープをしっかりつけられたから、バラバラにならなかった。 ・二人乗りができた。今度は、速く進む方法を考えたい。 ・〇〇さんのアイデアで、ペットボトルを2段にしたら、よく浮いたよ。	・うまくいったことと共に、次回行いたいことも発表し、次時への期待と見通しをもたせる。 ・困っていることがあれば、うまくいっている班を紹介し、他の班と交流する良さに気付かせる。 ・振り返りのときに、友だちの良さを位置づけるような声かけをする。	5

